

稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議の検討経過について

稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議（以下「市民会議」という。）につきましては、平成 27 年第 3 回市議会定例会において予算を議決していただき、年度内に 4 回の会議を開催することになっておりましたので、途中経過について報告します。

1 市民会議の委員構成について

市民会議は、稲城市自治会連合会、稲城市農業委員会、稲城市商工会、稲城市消防団、稲城市体育協会、稲城市教育委員、教育関係者、稲城市芸術文化団体連合会、稲城市立学校 P T A 連合会、稲城市青少年育成地区委員会正副委員長会、稲城国際交流の会、東京稲城ロータリークラブ、国際ソロプチミスト稲城、稲城青年会議所、N P O 法人市民活動サポートセンターいなぎの団体から推薦された 15 人の委員で構成しています。

2 市民会議の開催状況等について

(1) 第 1 回市民会議

○開催日時 平成 27 年 10 月 27 日（木）午後 7 時～ 8 時 35 分

○会 場 消防署 3 階 講堂

○出席委員 14 人

第 1 回の市民会議は、委嘱状の交付、自己紹介、市民会議設置要綱、委員長・副委員長の選出、これまでの経過等を議題として開催した。

海外との姉妹都市提携について、以下の意見が出された。

（主な意見の要約）

- ・子どもたちに素晴らしい夢の持てる場所を作ってあげたい。
- ・積極的に検討すべきである。
- ・スポーツを通じた市民交流ができると良い。
- ・グローバル化の中では、進めていくべきである。
- ・姉妹都市提携で海外との距離を縮めていけたら良い。
- ・海外との姉妹都市でどのようなことができるか、いろいろな国やまちを調べて一から検討する必要があるのではないか。
- ・稲城市の海外交流の歴史を整理した上で、進めていく必要があるのではないか。

(2) 第 2 回市民会議

○開催日時 平成 27 年 11 月 25 日（水）午後 7 時～ 8 時 55 分

○会 場 消防署 3 階 講堂

○出席委員 13 人

第 2 回の市民会議は、稲城市のこれまでの海外交流実績、海外姉妹都市提携の在り方等を議題として開催した。

- ① 稲城市のこれまでの海外交流実績について、行政、稲城国際交流の会、東京稲城ロータリークラブ、国際ソロプチミスト稲城、稲城青年会議所から報告を行った際、以下の意見が出された。

(主な意見の要約)

- ・国際交流の必要性は感じた。
- ・金銭的な補助を含めて考えることが必要である。
- ・交流をしていくことは賛成であるが、姉妹都市になったらすぐ子どもを行かせるとするのは現実的ではない。
- ・姉妹都市を結ぶことで交流の選択肢は増える。
- ・姉妹都市を結ぶというきっかけ論はいろいろある。
- ・どういう形態の交流ができるのかということを組み立てることが、一番肝心なことである。
- ・姉妹都市になれば小さい子からお年寄りまでみんなが交流できる。
- ・団体が交換留学を行うことと姉妹都市を結ぶことは別物である。
- ・安心して市民が行けるような道しるべを作ってあげたい。

- ② 海外姉妹都市提携の在り方について以下の意見が出された。

(主な意見の要約)

- ・茶道、華道などの交流ができれば、我々の文化を向こうに伝えることができる。
- ・グローバル社会の中で、国際社会に出ていかなければいけない時代で、青少年がもっと、海外に飛び出す機会を作れる。
- ・きっかけはいろいろあるので、今回のことをきっかけに進めることでこの会議も進んでいく。
- ・海外都市と交流することは良いが、姉妹都市提携ありきということには賛成できない。

(3) 第3回市民会議

○開催日時 平成27年12月17日(木)午後7時～9時15分

○会場 地域振興プラザ4階 中小会議室

○出席委員 13人

第3回の市民会議は、海外姉妹都市提携を希望している海外の都市(自治体国際化協会の情報)、海外姉妹都市との交流(他自治体での交流事業一覧)等を議題として開催した。

- ① 海外姉妹都市提携を希望している海外の都市について以下の意見が出された。

(主な意見の要約)

- ・日本との交流を希望している国は、中国が多いと感じた。
- ・英語は世界的な言語になりつつあり、一番良い。

- ・国際性を育むのであれば、海外姉妹都市提携は早急に考える課題である。
- ・海外姉妹都市を提携するには、交流の目的が一番の課題となる。
- ・英語圏と言ってもアメリカだけではない。
- ・候補を絞り、検討していった方が良い。
- ・英語圏に限定すると範囲が狭くなるのではないか。

② 海外姉妹都市との交流について以下の意見が出された。

(主な意見の要約)

- ・交流を続け、ある程度の年数を経てから提携しても良い。
- ・青少年を中心とした交流を目的にしたほうが良い。
- ・青少年から高齢者まで幅広く交流内容を広げると良い。
- ・多くの子どもたちが参加できる事業であるほうが良い。
- ・スカイプなどを活用し学校同士の交流でスタートしたら良い。
- ・財源も考えた上で仕組みづくりが必要である。
- ・目的をはっきりさせて交流することが重要である。
- ・交流は、教育、文化、経済、スポーツなどを複合的にやらないと長続きしない。
- ・ホームステイは、稲城市内の受け入れ先の確保に課題がある。
- ・ホームステイありきでなくても良いのではないか。
- ・ホテルなどに宿泊してもらい交流することもできる。
- ・場所を絞ってから交流事業を検討したほうが良い。

③ 今年度あと1回の会議でまとめることは難しいという意見があり、委員長の判断により、これからの進め方について意見を伺った。その結果、以下の2点について市民会議にて確認した。

(確認した内容)

- ・今年度あと1回で結論を出すことはできない。そのため、来年度も会議を継続し検討するように配慮してほしい。
- ・この会議で、都市の選定もしなければならぬので、現地を視察し、相手側を確認できるように配慮してほしい。

3 今後のスケジュール

第4回市民会議につきましては、3月中旬頃を予定しています。議題につきましては、海外都市と交流するとすればどのような事業が望ましいのかということについて意見交換を予定しています。